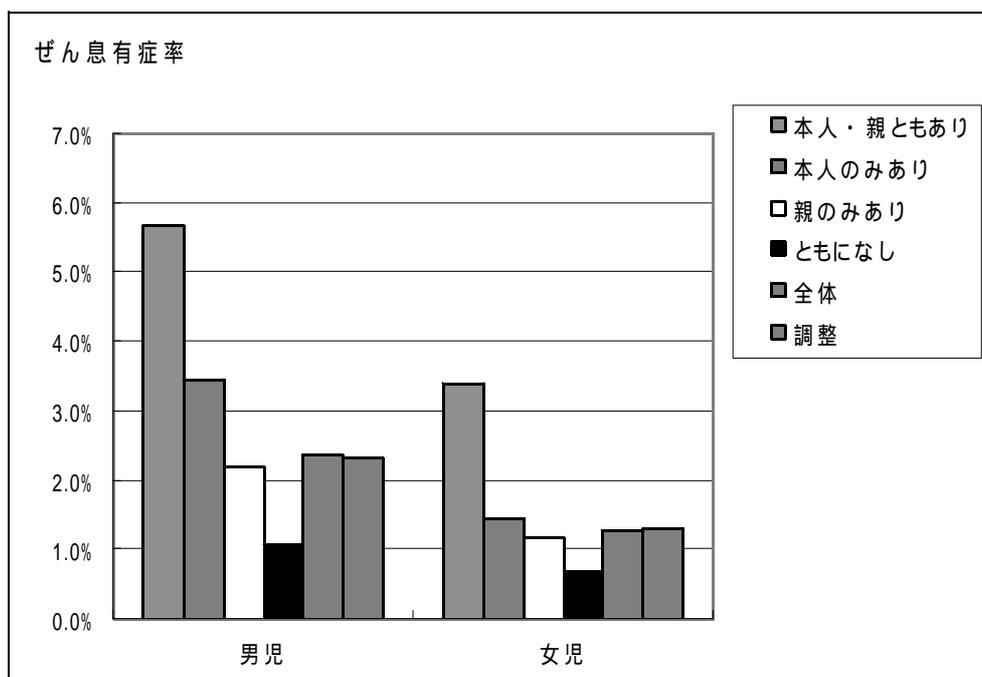


(参考) アレルギー素因タイプ別呼吸器症状有症率群間比較

アレルギー素因は性差とともに呼吸器症状有症率に大きく影響する因子である。そこで以下に、対象者のアレルギー素因のタイプ別に呼吸器症状の有症率を比較した。アレルギー素因のタイプは次の定義に従って、 本人・親ともアレルギー素因あり、 本人のみアレルギー素因あり、 親のみアレルギー素因あり、 本人・親ともアレルギー素因なしの4群とした。

本人のアレルギー素因あり： 本人に、アレルギー性鼻炎、じんましん、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎のいずれかの既往歴のある者
 親のアレルギー素因あり： 父親又は母親のどちらか若しくは両方に、気管支ぜん息、小児ぜん息、花粉症のいずれかの既往歴のある者

その結果、アレルギー素因が呼吸器症状に与える影響はきわめて大きいことが改めて確認された。「本人、親ともアレルギー素因のある」対象者のぜん息有症率は「本人、親ともアレルギー素因を持たない」対象者の5～6倍高率であった。



環境保健サーベイランス調査検討委員会 (: 座長)

- 小野 雅司 国立環境研究所環境健康部環境疫学研究室室長
- 小田嶋 博 国立療養所南福岡病院小児科部長
- 島 正之 千葉大学医学部講師
- 田中 隆信 北九州市八幡西区役所保健福祉センター保健福祉課主査
- 本田 靖 筑波大学体育科学系環境保健学研究室助教授
- 森口 祐一 国立環境研究所地域環境研究グループ総合研究官

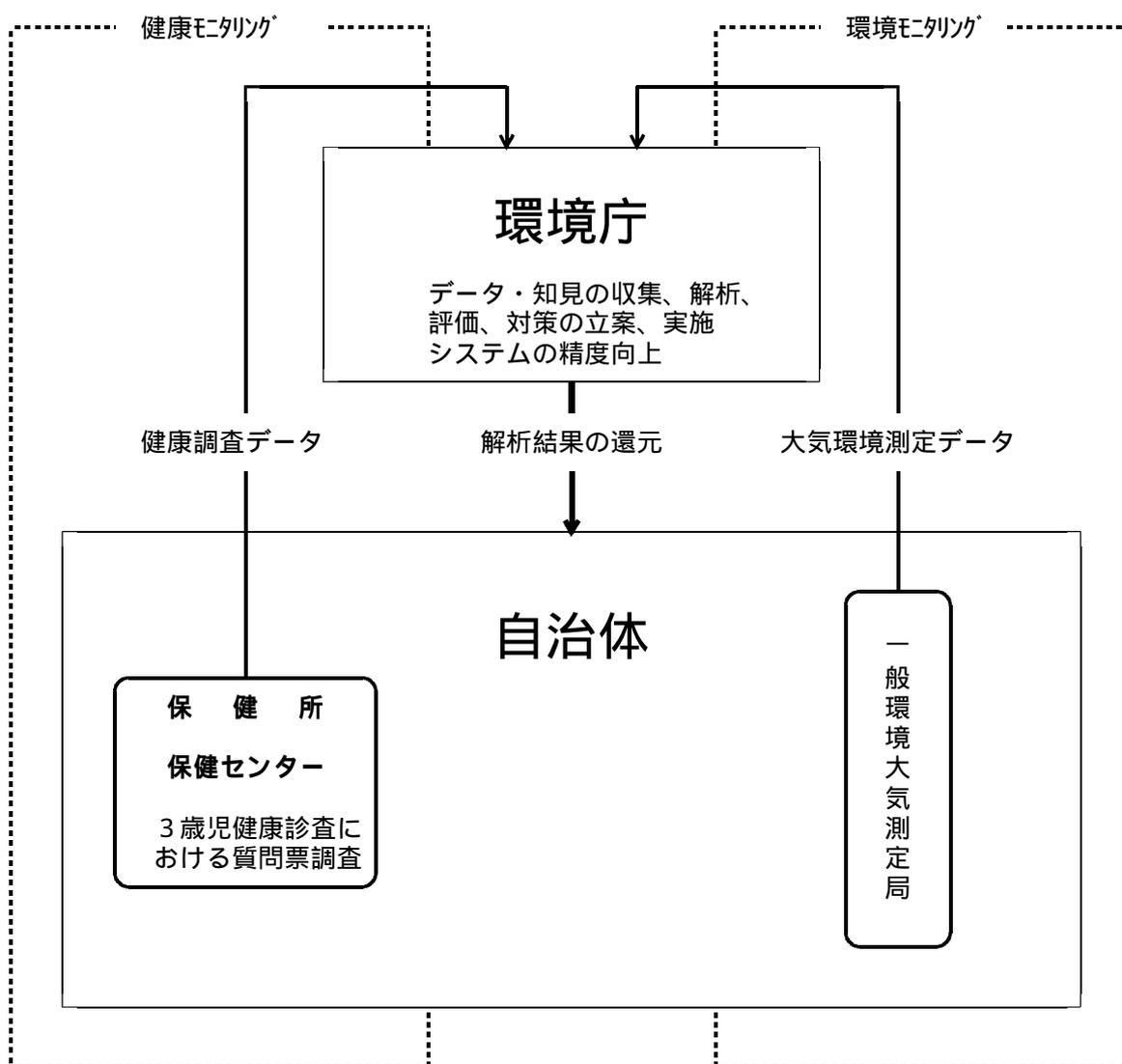
	対象者数	回 答 数	回 答 率
1	八戸市	2,236	83.1%
2	盛岡市	3,905	90.4%
3	横手・大曲市	882	73.5%
4	佐野市	1,150	94.0%
5	草加市	1,759	75.5%
6	柏・我孫子市	3,301	81.5%
7	台東区	846	87.2%
8	墨田区	1,369	90.9%
9	中野区	1,444	81.6%
10	横浜市鶴見区	1,977	83.6%
11	川崎市幸区	885	73.5%
12	相模原市	3,000	80.3%
13	高岡市	1,420	96.7%
14	甲府市	1,450	79.5%
15	大垣市	1,514	91.9%
16	名古屋市南区	1,104	82.4%
17	安城市	1,690	91.8%
18	東海市	989	94.8%
19	四日市市	2,870	92.2%
20	宇治市	1,571	91.5%
21	大阪市淀川・西淀川区	1,556	70.9%
22	堺市	1,394	99.6%
23	大東市	1,179	86.3%
24	神戸市兵庫区	578	83.5%
25	尼崎市	1,135	72.8%
26	西宮市	2,746	78.7%
27	芦屋市	532	77.3%
28	岡山市	2,818	56.2%
29	広島市安佐南区	1,582	77.4%
30	宇部・小野田市	1,812	90.0%
31	北九州市八幡西区	1,170	47.4%
32	島原市	979	92.2%
33	熊本市	3,285	92.3%
34	玉名市	937	93.0%
35	宮崎市	3,408	81.2%
36	那覇市	3,048	85.7%
	全体	63,521	81.8%

表 1 平成 8 年度 環境保健サーベイランス調査対象地域

(環境保健サーベイランスシステムとは)

長期的かつ予見的観点をもって、地域人口集団の健康影響と大気汚染との関係を定期的・継続的に観察し、必要に応じて所要の措置を早期に講ずるためのものとし、環境モニタリング、健康モニタリング、これらの情報を中心とするデータ・知見の集積、解析、評価、これらに基づく適切な対策の立案、実施の四つからなるものであり、これらの関連を示したのが下図である。

環境保健サーベイランスシステム概念図



注) 環境庁問い合わせ先

環境庁環境保健部保健業務室 ^{えの}江野

〒100-8975 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2

TEL 03-5521-8256 FAX 03-3503-0412